

可児市議会議員 澤野 伸 様

報告者

可児市議会議員 渡辺 仁美

教育福祉委員会行政視察報告書

所管事務調査を行いましたので、その概要を下記のとおり報告します。

記

1. 日 程 令和6年12月11日 10:20~12:30
2. 視 察 先 岐阜市立方県小学校
3. 視 察 事 項 イエナプラン教育について
4. 出 席 者 教育福祉委員6名
 (委員長)川合(副委員長)渡辺(委員)富田、野呂、田口、酒向
5. 視察結果報告

【視察目的】

イエナプラン教育のエッセンスを取り入れた学びについて視察し、さらなる学校教育の充実に生かせることはないか調査研究する。

【視察の内容】

イエナプランは、ドイツで生まれ、その後オランダで発展した学校教育。ビジョンを重視するものであり、そのビジョンは「自律と共生を育む」というものである。また、コンセプトとして、1人間について、2社会について、3学校について記された20の原則がある(日本イエナプラン教育協会HP参照)。

「自ら学び、心豊かでたくましい方県の子」。これは方県小学校の教育目標である。各学級ごとの目標を設けるなどし、子どもたちを迷わせないと言う配慮からこの1点に校内で統一しているとのこと。この教育目標については、イエナプランの精神に基づいていると言うことが伺えた。そしてそれは、校内の各クラスを見学することによって確信できた。

はじめに1, 2年生の合同授業を視察した。入室すると子どもたちは、我々に挨拶を元気にしてくれる。クラスで祭りを行おうと、ちょうど企画やものづくりを始めるところであった。担任の先生は教えたり、指導したりすることなく、子どもたちの求めに応じてア

ドバイスをしたりなどしていた。子どもたちは、集中して取り組み、またのびのびとしていた。1人の女子が、校長先生に自分の作品を見せようと「これ難しいよ」などと話しかけていた。

次に3年生のオンライン授業を視察した。岐阜市内の小規模校2校と連携した、3校同時のオンライン授業である。丸テーブルを数人で囲んで、大きなスクリーン2つで、それぞれ自分のクラスの様子や他の2校の様子を目で見ながら、同じ質問に各校の子どもたちが答えたり、画像と音声で自分の考えをタブレットを操作して発表したりしていた。連携授業をすることで多様な考え方を学ぶのが目的とのこと。また、3校の3名の担任の先生の連携で行われるこのクラスは、担任の先生にとっても、時間の配分などメリットがあるとのことである。

次に4年生から6年生クラスの合同授業を視察した。ここでは算数の図形をデジタル教科書で学んでいた。紙の教科書と違い、平面でなく、立体の図形に興味を持ち、積極的に設問に取り組んでいる様子が伺えた。ここでも先生はあくまでサポート役で、先生には聞きづらくても友達になら気軽に聞けることや、異学年で学び下級生に教えることで自信がつくなど良い効果が生まれるということだった。

その後、校長先生から次の説明を受けた。イエナプランは、異学年交流を大切にしている。例えば、はじめ、皆で決めた鬼ごっこをしていたが、1年生が鬼ごっこを止めて、砂場で遊び出した。それを見た上の学年の子が「だめじゃないか。みんなで決めたルールだ。みんなで一緒に守らなければ」と言い張った。そしてそのことを担任の先生にも抗議した。再度話し合い、もう一度全員で、今度はドッジボールをすることになった。ドッジボールの途中で、先ほどだめじゃないかと、1年生に言った子が新たなルールを考え提案した。1年生の子はボールが3回タッチしたらアウトだよという思いやりのルールであった。また、川魚をとってきて、クラスの水槽で飼育を始めた。子どもたちはクラスに水族館を作って全校全員を招待するんだと張り切っている。その水槽を見せてもらったが、ガラス面はピカピカで丁寧に飼育されている様子がわかった。いずれの事例も先生は指導せず、子どもたちを信頼して任せるというイエナプラン教育に沿った方針だ。

校長先生は、イエナプラン教育の実践校ということで、各地の学校に招かれ講演をしている。私たちの視察の週も大阪と四国に講演に行く予定だと話された。子どもたちの「学校が面白い」と言う言葉に、校長先生はイエナプランを導入して良かったと確信しておられる。

【考察】

イエナプラン教育は、比較的学校教育に取り入れやすい手法であるとの印象を得た。ただ、方県小学校のように小規模校であれば順応しやすいが、児童数によっては、どのような取り組み方があるのか検討の必要がある。類似した方式に古くからドルトンスクールが一部の学校で取り入れられているが、こちらは費用の点で導入が難しいと考える。また、イエナプラン教育のような方式を学校教育に取り入れる場合、まず必要となってくるのが、先生方の意識の改革である。教諭は、教育者であり、教えるという行為をどのように変革

させていくのか、悩ましいところである。現に、校長先生は前任校の則竹小学校でイエナプラン教育を取り入れた学びを始められたが、その導入の際、初めから賛同された先生はわずか2名であったと聞いた。その後、徐々に子どもたちの良い変化に気づいた先生方がイエナプラン教育を学び、学校全体で実践していったと聞いた。

自ら学び、心豊かでたくましい子を、可児市の教育大綱でも目指している。目標は同じでも、行き着くための方法は1つではない。大事な事は、教育理論を具現化することであって、いかに日々の学校教育並びに学校生活に取り入れていくか、このことを念頭に置いて、今後も教育福祉委員会としての考察を重ねていく。このような思いを新たにした今回の視察であった。関係者の方々に感謝申し上げます。



1, 2年生の授業



3年生のオンライン授業



4～6年生の授業の様子